

## 1 WSに参加しての「！」(合点！納得！わかった！発見！)「？」(何故？湧いた疑問)


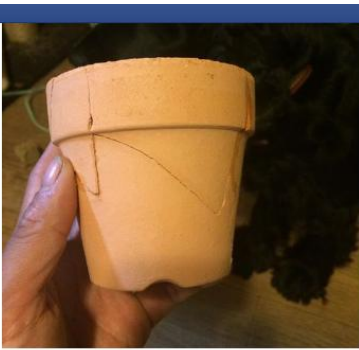

- !
- ・プラスチックも、天然資源の石油から作られているのだった... そうだった。。
  - ・今まで土器を掘り出して、観察していた人達が、歴史にしか教務がなかったから、土器修復の技術が長い間へっぽこだった（ざっくり解釈ですいません）ということ。きっとセメダインで直してた人達も、いい加減にやってたつもりはなくて、その修復方法でばっちり！だと思ってやってたんだと思います。それによって劣化することを知らなかったっていうことじゃなくて、劣化に気を配ることなんて考えもしなかったというか。。。だからこそ、今だにセメダインのほうがいいよという意見もある。ものごとは色んな視点や考え方が大切なんだと思うし、まずは色んな視点で考えよう！ということに気付かないと、一部の考えで進んでしまうリスクはとっても大きいなあと思いました。
  - ・修復したもの、また土に戻したりすんだ！それならば、やっぱり循環する接着剤じゃないとと改めて思いました。
  - ・プラスチックや有機溶剤も天然由来の原材料と言うのにはそういえば！？とびっくり。
  - ・接着剤は、そのものに適した接着力であることが大切。強ければ良いってわけじゃない。
  - ・膠の臭いの元は微生物だったのか！と、考えてみると魚の臭いもそうで、繁殖すると臭みは増す。ぬか床の香りもそうなのかな？そうだろうな。見えない世界があるけれど確かにそれらはある。五感。見えぬもの聞こえぬものなど臭いや味覚などを使ったりしてそれぞれが補い合う事によってどこかで知り得ないものの波長を感じることができる！道具は使ってこそ、道具。直すのは使うため。捨てずに直す。もしかしたら、煮炊きやモノの運搬、保存容器として役に立たなくても、その当時から先人の作り方や大切な人を思い出すために、それを遺す。
  - ・接着は、何のためにが大事。金継ぎ目線からだけ接着を見ていた自分が、岩月先生の話聞いて、接着には、いろんな目的があるのだと。そして、岩月先生本当に土器ラブなんだな～と思いました。
  - ・研究や展示のための修復で使われる膠やその他の接着剤のこと、目的を明確にする重要性がよく理解できたと思います。実際に古代での生活場面でどんなふうに膠を作り利用していたのか、というところがまだ見えていない気がして、それは水に溶けてしまうという性質がわかっていなかったらでもありますが、澤野さんの膠で矢じりを紐で結んで膠を塗るとか、木や竹の製品や道具を直すとか、実際にやってみたいと思いました。
  - ・膠が漆より古くから利用されていた、ということも憶えておこうと思いました。次は漆について学びたいです。それから漆以外の樹液のことも。

?

- ・ 膠を煮て臭いのは、匂いの元になる菌がいるから。でも、菌がまったくいなくなってもダメ。名もない菌だろうけど、どなたさんが残るといいのか?? どうすればいいのか?
- ・ 有機溶剤の意味もわからないで参加してせいかもしれません、、、、「プラスチックが石油でできてるから自然のもの」という理屈でいくと、シンナーとか有機溶剤も、というかいま扱えるあらゆる物質は、地球にあるものを人間があれこれ加工してできたものじゃのかなあ? と思って、違いがよくわかりませんでした。ポタグラーもツンとくる匂いだったし。土器修復に使えるかどうかのポイントは「土器にダメージを与えるか否か」とか、いくつかの性質であって、結局適材適所っていうことなんじゃないかな~ と思ってしまったり。プラスチックと有機溶剤はそんなに違うもの? どう違うの~? どこまでが自然で、どこからが人工? きっと、土器の音が聞こえたら色んな事がわかるんだろうなあ。。。本能的な部分で感じる事ができないと、わからないのかも。。。。
- ・ 弥生のは壊れちゃった土器どうしてたのかな~? とやっぱり気になりました。穴開けて桜の皮以外に方法はあったのかな~?
- ・ ニカワのにおいのもと、強度に影響すること、、、製法上の工夫を重ねてみます。
- ・ 膠を作るのは、臭いの問題があるから住居から離れたところで作ったのかな? 膠作りの専門の人がいたのだろうか?
- ・ 大切なんだと伝えるために装飾し、装飾とは直した跡のこと、鑑賞したのかなあ?
- ・ 土器修復について、世界的にみると、日本はかなり遅れているそうです。会が修復とかは、進んでいるそうですし、手先が器用な日本人がなぜ? 土器ラブが足りないのか。。
- ・ 松ヤニなどはどうだったのだろうか?
- ・ 石油から科学を使って作られたもの=人工的、皮を煮て手作り=自然、という誤解について、もう少し整理して理解できるのか?

## 2 接着実験を行った植木鉢のその後

NO	①	②	③-1
	本原さんの植木鉢	澤野さんの植木鉢	スソさんの植木鉢
コメント	澤野さん謹製膠で接着のところ、くっついてなかったあ。淡い期待とともにテープを外したとこ。	まあさすががしいくらい！！断面になんお痕跡もなく。。薄い？吸収された？？ポタグルーくらいの粘性がないとですね。	膠部分が弱かったのですが、ポタグルー部分も塗り方が良くなったせいか、このように壊れてしまいました。
写真			
NO	③-2	③-3	③-4
	スソさんの植木鉢	スソさんの植木鉢	スソさんの植木鉢
コメント	木工用ボンドと ASHURA は強く着いています。	アロンアルファ部分が、いちばん汚くなりました。面で塗ったセメダインが効いて、膠がもっているところもあります。	膠はテカらなかったけど、ポタグルーはテカりますね。粘着力が上がるとテカリが出るのでしょうか？
写真			
NO	④	⑤	⑥-1
	スソさんの土偶ちゃん	木佐貫さんの植木鉢	津田さんの植木鉢
コメント	岩月さんが丁寧にポタグルーを塗ってくださったので、しっかり足がつけました！	遠慮なく両面にたっぷり濡れるまで塗って、先生の手をお借りしての成果です。圧着時の力の入れ方、その意思をテープにも。目の前で技が見れました。ひとつひとつ、全てが欠かせぬ作業ですね。	私にも、ニカワ部分、ひっぱったら取れそうな感じではありますが、かろうじてくっついていました。

写真			
NO	⑥-2	⑦	
	津田さんの植木鉢	竹川の植木鉢	
コメント	<p>一回膠を塗ってちょっと乾かしてからもう一回膠を塗って圧着させました。日本画で箔を貼るとき、捨て膠という作業をするので、その習慣で同じようにしていたんですよ。</p>	<p>溶けずに残っていた膠の固形部分が膠成分が濃いかんと思っ て、筆を固形になすりつけ、接着面にたっぷりめに。</p>	
写真	